

015

受験番号

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文

総合人間学科

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで開けてはいけません。
2. 試験開始の合図の後、直ちに表紙、問題用紙および解答用紙に受験番号を記入してください。
3. 問題用紙が4枚、解答用紙が4枚、下書き用紙が5枚ありますので、開始の合図の後、乱丁や落丁がないかどうか確かめてください。
もしあれば、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (1 / 4)

受験番号

--

1 以下の文を読んで問いに答えなさい。

日本の高齢化はかつてないほどに進行している。それだけに、経済成長と社会保障の持続可能性、高齢者の健康や生きがい、生活の保障や仕事などをどうしていくのか、これからの日本にとってますます大きな課題となっている。

これからの日本では、次に述べる意味でも、高齢者のコミュニティの問題は大きな社会的課題となるだろう。第1に、日本の高齢化は世界のトップクラスであり、しかもその比率は将来的にも上昇していくことが推測されている。

第2に、日本の高齢者のうち、とくに企業に勤めてきた人や首都圏などの都市部で現役世代のほとんどの時間を職場で過ごす人では、退職後の居住地にはコミュニティを持たない場合が多い。そのため、退職後のコミュニティにおける関係性の形成が難しい。高齢期は退職により職場コミュニティから卒業する時期であるとともに、子どもの独立や配偶者の死亡など家族や職場の関与がなくなることで、社会とのつながりが減り、孤立しやすい。職場などフォーマルな関係が減少し、インフォーマルな関係が中心となっていく。孤立した高齢者は、社会からの情報が得られにくいだけでなく、精神的、身体的な支えも得られにくい。

第3に、高齢者の家族の形態として単身世帯あるいは夫婦だけの世帯が増えており、高齢者の孤立化が懸念される。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、2035年には世帯主が65歳以上の高齢世帯では単身世帯が約4割を占める。その数も、2010年の498万人から20年後の2035年には762万人と約1.5倍に増加する。この単身世帯割合は地域別でみると東京都で最も高く、2010年の38%から2035年には44%に高まる。コミュニティにおける高齢者の孤立化を避けるため、安心して幸せな楽しい人生を過ごすためにも、コミュニティの環境づくりが求められる。

職住近接で働き続ける人が多い地方では、親族や町内会、同窓生など、退職以前からインフォーマルなコミュニティとのかかわりが維持されやすい傾向にあるといえる。そのため高齢期を迎えた際には、職場というフォーマルなコミュニティから地域のインフォーマルなコミュニティに比重を高めていくことが比較的容易であると考えられる。内閣府の調査でも、近隣の人との付き合いの程度は、都市規模が小さくなるほど親しく付き合っている割合が高く、大都市と町村では約2倍の差がある。近隣の人との付き合いが希薄な理由としては、とくに大都市では近所と知り合うきっかけがない、付き合う機会がないことが多くあげられている。

人口が集中し、今後の高齢化が一層進む都市部を中心に、地域のコミュニティとのかかわりをほとんど持ってこなかった人が高齢期を迎える場合には、職場のコミュニティから退職後の地域のコミュニティへの関係性の移行をスムーズにおこなえる仕組みや環境が整っていることが求められるといえるだろう。

では、都市部の高齢者の孤立を防ぐにはどのようなことが求められているのか。

(佐藤千春「高齢者とコミュニティ」丸尾直美・宮垣元・矢口和宏(編)『コミュニティの再生——経済と社会の潜在力を活かす』による。原文を改めた箇所がある。)

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (2 / 4)

受験番号

(問) 本文に即してなぜ都市部の高齢者は孤立しやすいのかを説明したうえで、あなたが考える孤立対策について具体的に論じなさい。(日本語で800字以内)

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (3 / 4)

受験番号

2 次の道徳的価値について書かれた英文を読み、下の問いに日本語で答えなさい。

One problem is that we often exaggerate our divergences*, making them much worse than they might be. (7) We polarize* values.

Look around at the bumper stickers* you see on major moral issues. On most of these issues there are usually supposed to be just two, clearly distinct and opposite positions. On abortion*, "pro-life*" sets itself up against "pro-choice*," and vice versa*. On gun control, assisted suicide, gay marriage, and a host of other hot issues, it's often just "yes or no." Almost no other options get discussed.

Polarizing values has another side too. We usually suppose that one side—our own, of course!—is completely right and the other side completely wrong. We polarize values in order to picture ourselves as totally justified, totally right, and the other side as totally unjustified* and totally wrong. All good on one side, all evil on the other. Day and night, black and white, us and them. Polarizing values therefore makes things crystal clear, protects us from doubts, justifies us completely. Our choices become easy.

But polarizing values is a bad idea. Reality is more complicated, more interesting, and maybe, just maybe, much more promising.

In nearly every serious moral issue, the truth is that both sides have a point. Or rather, *all* sides have a point, since there are often more than two. All sides speak for something worth considering. Each side is right about *something*.

To put it another way: most moral conflicts are real, not just mistakes by one side or the other about what really matters. There is genuine good on *both* sides—on *all* sides. "Only dogmatism*," wrote the philosopher John Dewey, "can suppose that serious moral conflict is between something clearly bad and something known to be good, and that uncertainty lies wholly in the will of the one choosing. Most conflicts of importance are conflicts between things which are or have been satisfying, not between good and evil."

Again—they are choices between one good thing and another. Not "right versus wrong" but "right versus *right*." We need to start by honoring that fact.

(Anthony Weston, *A Practical Companion to Ethics*, 3rd Edition による。原文を改めた箇所がある。)

令和7年度 熊本大学文学部 学校推薦型選抜試験問題

小論文 問題用紙 (4 / 4)

受験番号

(注)

divergences* 相違 polarize* 二極化する bumper stickers* 車のバンパーに貼るステッカー abortion* 人工妊娠中絶 pro-life* 人工妊娠中絶合法化に反対の pro-choice* 人工妊娠中絶合法化に賛成の vice versa* 逆もまた同様 unjustified* 根拠のない dogmatism* 独断論

(問1) 下線部 (ア) に関して筆者は、わたしたちの道徳的価値に関する構えとして二つの特徴を挙げている。それらを簡潔にまとめよ。(日本語で80字以内)

(問2) 筆者は下線部 (ア) のような傾向をどのように評価し、どのような提案をしていますか。本文に沿って説明し、筆者の見解に対するあなた自身の考えを述べなさい。(日本語で500字以内)